

よくある制作フローと区分例 v0.1

来歴区分表 別紙（参考情報）

項目	内容
文書 ID	STD-PROV-001-EX
版数	v0.1
公開日	2026-08-07
対応する規格	来歴区分表 v0.17
作成	来歴標準プロジェクト
ライセンス	CC BY 4.0 — 出典を書けば、書き換えても商売に使っても自由です

この別紙について

来歴区分表の区分 A～E を、**実際の制作フローに当てはめた例**を集めたものです。「自分のこの作り方は、どの区分になるのか」を判断するときの参考にしてください。

この別紙は参考情報であり、規格の一部ではありません。 例と規格本文の言い方が食い違って見えるときは、規格本文が優先します。道具の名前は説明のための例で、特定の製品を推奨したり評価したりするものではありません。AI 機能の中身は製品の更新で変わるため、**この別紙は規格本体より短い間隔で見直します。**

先に押さえる 3 つのこと

- 迷ったら、AI の関与が大きいほうの区分を選ぶ。** C か D で迷ったら D、D か E で迷ったら E。関与を小さく申告すると嘘の申告になりますが、大きく申告しても嘘にはなりません。
- 部分ごとに違うときは、いちばん大きい区分＋内訳。** 例：区分 D（人物：A／背景：D）。境目の判断に自信が持てないときほど、内訳を書き添えることをお勧めします。内訳があれば、受け取る側が自分で判断できます。内訳に書く区分は、**その部分を単体の作品とみなした場合の区分**です（全体の区分は「脇役にとどまるか」で決まるため、区分 C（人物：A／背景：E）のような書き方になります）。
- 「何を作品として申告するか」で区分は変わる。** 同じ AI 生成バナー画像でも、**サイト全体**を作品として申告するなら部品の一つ（C）、**バナー単体**を納品物として申告するならほぼそのまま（E）です。申告の前に、何を 1 つの作品として数えるかを決めてください。受注の仕事なら、納品物の単位に合わせるのが自然です。

1. イラスト・デザイン

制作フロー	区分	考え方
完全に手描き。AI 機能は	A	生成 AI を使っておらず、AI

制作フロー	区分	考え方
使っていない		が作ったものが入っていない
ノイズ除去、アップスケール、自動選択、切り抜きのみ	B	もともとあったものを整えただけ。新しい中身は生まれていない
線画の自動整え、下塗りの自動着色	B	自分が描いた線・構図が「もと」。それを整えている
Photoshop の生成塗りつぶしで、背景の一部にものを描き足した	C	もとに無かったものが生成された。ただし脇役にとどまる
Firefly で背景を生成し、人物は自分で描いた	C	背景を取り除いても、人物だけで作品として成り立つなら C。 背景が主題で、除くと成り立たないなら D
Midjourney で作ったラフを参考に、全部自分で描き直した（AI の出力は作品に残っていない）	C	参考にしただけでも C です。作品に残っていないくても、生成物が制作過程に入っている
AI が生成した人物を、大幅に加筆・修正して作品に仕上げた	D	主な部分を AI が作り、人が作品と呼べるだけの手を入れた
Firefly で生成した画像を、色調整だけして納品した	E	色調整は「整えただけ」。人の手入れが作品と呼べるところまで来ていない

背景だけ AI なのに、印象は背景で決まっている——という場合。区分は「印象の大小」ではなく「**取り除いても作品として成り立つか**」で決めます。印象を大きく左右する背景でも、人物だけで作品が成立するなら C です。そのうえで、見る人の受け取り方が気になるときは、内訳（区分 C（人物：A／背景：E））を書き添えてください。区分の 1 文字より多くのことが伝わります。

2. 写真

制作フロー	区分	考え方
RAW 現像、ノイズ除去、トリミング、Lightroom の自動補正	B	撮った写真を整えただけ
小さなゴミ・電線を消した（消した跡を AI が埋めた）	B	埋めた部分が「整えた」の範囲にとどまる
大きな被写体を消し、AI が背景を広い面積で生成した	C	埋めた部分に、もともと無かった絵柄が生成されている
空だけ AI で置き換えた	C	空を除いても写真として成

制作フロー	区分	考え方
		り立つなら C。空が主題なら（除くと成り立たないなら） D
生成拡張でフレームの外を作り足した	C	作り足した部分は撮っていない。脇役にとどまるなら C
撮った写真を下敷きに、AI で別の画調に生成し直した	D	主な部分を AI が生成。もとの写真と構図が人の寄与
文章から画像を生成し、補正して「写真風の作品」とした	E	撮影していない。ほぼそのまま作品になっている

消す・埋めるの線引き。「消す」操作は、消した跡を AI が生成して埋めています。**埋めた面積と目立ち方が「整えた」の範囲か、「無かったものが出てきた」かで分けてください。**迷ったら C です。

3. 文章・コピー

制作フロー	区分	考え方
誤字脱字チェック、校正 AI、表記ゆれの統一	B	自分の文章を整えただけ
構成案・アイデア出しを AI と行い、本文は全部自分で書いた	C	参考にしただけでも C
文章の一部（見出し、要約、定型部分）を AI に書かせた	C	生成された文が入っているが、脇役にとどまる
ChatGPT のキャッチコピー案を、そのまま採用した	C～E	何が納品物かで変わります。 ポスター全体の一要素なら C。コピー単体が納品物なら、そのまま採用は E。案をもとに自分の言葉に書き直したなら C～D
AI が書いた下書きに、大幅に手を入れて自分の文章にした	D	主な部分を AI が書き、人が作品と呼べるだけの手を入れた
AI が書いた文章を、てにをはだけ直して公開した	E	整えただけの手入れにとどまる
機械翻訳の出力をそのまま訳文として納品した	E	翻訳物としてはほぼ全面的生成。大幅なポストエディットを施したなら D

4. Web 制作・複合的な制作

制作フロー	区分	考え方
コード補完でスニペットを生成しつつ、サイト全体は自分で設計・実装した	C	サイト全体を作品とすれば、生成部分は脇役
デザインは自分、バナーや挿絵を AI 生成してそのまま配置した	C	サイト全体としては C。 バナー単体を納品するなら E （前記「何を作品として申告するか」）
AI にページ全体を生成させ、大幅に作り替えた	D	主な部分を AI が作り、人が実質的に改変した
AI が生成したページを、文言差し替えだけで公開した	E	整えただけの手入れにとどまる

複数の要素が混ざる制作では、**内訳の書き添え**（例：区分 C（コード：C／画像：E／文章：A））がいちばん実用的です。

この別紙の見直し

道具の AI 機能は年々増え、区分 B の範囲は動きます（規格本文「これから決めること」4）。例が実態と合わなくなったと感じたら、contact@jumpstack.co.jp までお知らせください。**この別紙は、寄せられた実例を足しながら更新していきます。**

改訂の記録

版	日付	内容
v0.1	2026-08-07	初版。デザイン実務者からの意見（2026-08-06 受領）をもとに作成。同意見の 5 つの例をすべて収載した